

ハンドブック
ワンポイント
レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

平成22年度の1級審判員研修会時に質問された問題です。

「ダブルスのマッチで一方のプレーヤーが打球した際に、ラケットが手から離れ、すぐに拾うことができない場所に飛んでしまった（自分のコート）。この時、次にあきらかにラケットがない選手が狙われることが分かったため、ペアのプレーヤーが自分のラケットを渡し、返球に成功した。この返球は有効になるのでしょうか？」

Answer

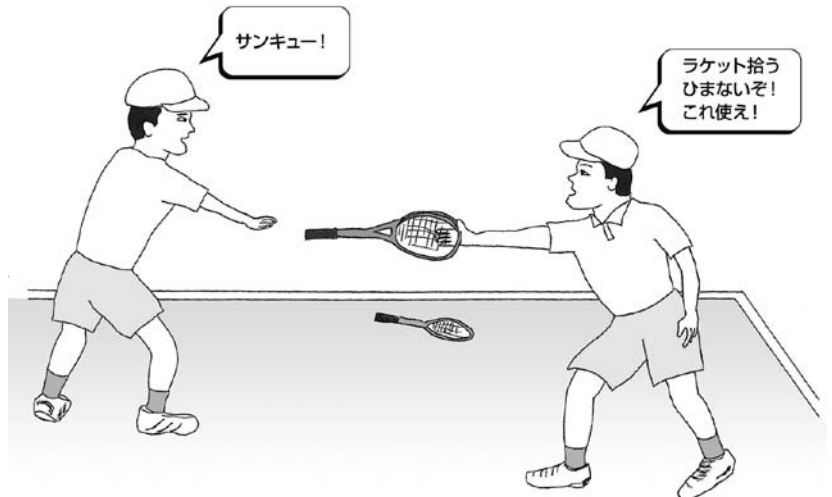
プレーヤーは常に1本のラケットを用いて競技しなければならない。

事例はあまりないと思いますが、結論から申し上げますと、この返球は有効となります。

今回のケースを判断する規則としては、競技規則第16条（マッチ）第2項の「各プレーヤーは常に1本のラケットを用いて競技を行う。」と、第35条（インプレーにおける失ポイント）第8号「手から離れたラケットで返球した場合」等が該当するかと思います。

よく見受けるプレーは、打球の際に汗でグリップが滑りラケットが手から離れてコート上にラケットが飛んで返球出来ない光景はよく見受けられます。しかし、この度はパートナーのラケットで返球したとのこと。競技規則のどの条文にも罰則になることが見つかりません。1本のラケットとは、この場合、ペアのラケットであっても許容されるものと考えます。もともと、ひとりひとりのプレーヤーはそれぞれ1本のラケットを持ってプレーすることになっており、ひとりが2本のラケットを持ってプレーすることは認められないことになっております。

そこで、ラケットを飛ばしてしまったプレーヤーが、ペアのラケットを使って返球しても1本のラケットを用いて競技したものと解釈し、有効返球とするものです。ただし、飛んでしまったラケットが、直接又は一旦コートに落ちてからネット、ネットポスト、そのマッチのアンパイヤー又は審判台に触れた場合は「タッチ」となり、失ポイントになります。



【関連規則】

競技規則第16条（マッチ）2

競技規則第35条（インプレーにおける失ポイント）(8) (10) (11)

ジュニア審判マニュアル

5. マッチ（試合のことをいう）(1)

11. ポイントを失うのはどんなときか? (11) (14)、(15)